

## オガサワラカワラヒワ野生復帰実施計画（骨子案）

※本計画はオガサワラカワラヒワ保護増殖事業実施計画の別紙として整理することを想定している

### 1. 本計画の目的

本計画は、飼育繁殖個体の野生復帰による野生個体群の補強を目的とする。また、本種の野生復帰手法については未確立であるため、近縁種も含めた各種技術開発及び科学的知見が不可欠であり、これらの集積を同時に実施することとし、計画自体は必要に応じて、順応的な運用または状況に応じた柔軟な変更を加えながら事業を実施していく。なお、本事業は「絶滅のおそれのある野生動植物種の野生復帰に関する基本的な考え方（平成23年3月）」に準じて実施する。

### 2. 実施期間

事業実施計画を参照。（～令和9年度）

### 3. 実施体制

・実施体制図を簡潔に示す（実施主体、実施内容）

### 4. 野生復帰対象地

・野生復帰対象地は母島本島及び母島属島とする旨を記載。

### 5. 生息域外における飼育下繁殖事業との連携

・本計画に基づく事業は生息域外における飼育下繁殖事業と連携して実施する旨を記載。

### 6. 野生復帰対象地域における生息環境整備

・野生復帰を行うには、対象地における生息環境整備、捕食者対策が必須であることを記載。

### 7. 野生復帰手法と実施スケジュール

※計画策定時点では、飼育繁殖技術は確立しておらず域外における繁殖事例も無い状況であるが、本種の危機的状況を踏まえて野生復帰に向けた準備を技術開発等と同時並行で進める旨記載。

※本種の推定残存個体数と飼育繁殖個体数より適切にスケジュール等を判断する旨記載。

**(1) 野生復帰させる個体数**

- ・年間20羽以上を目安とし、今後知見の蓄積が期待される域外における繁殖数、生息域内の目標個体数等に応じて設定する。

**(2) 野生順化及び放鳥方法**

## 1) 放鳥場所

## ①繁殖属島における放鳥

- ・野生個体の巣立ち時期に水場において放鳥。

## ②母島本島における放鳥

- ・母島で放鳥する場合、9月に母島本島に飛来する群れに紛れ込ませる旨を記載。

## 2) 放鳥方法

- ・試行的にソフトリリース方式とする。
- ・ソフトリリースの試行は、個体が入り自由な仮設ケージを放鳥場所に設置することで実施。
- ・仮設ケージは、本種が外敵に襲われない構造とする。また試行錯誤を伴う可能性が高いことから、出来るだけ設置及び撤去が簡便、かつ安価となるように計画する。
- ・放鳥場所の生息環境、捕食者の存在に留意。

**(3) 野生復帰により懸念される悪影響の推測とその排除手法**

- ・放鳥個体から野生下への病原体の伝播するリスクと対策が必要である旨を記載。
- ・放鳥基準の設定（病原体検査、障害の有無、年齢、性別等）

**8. 放鳥個体のモニタリング**

- ・放鳥後のモニタリング体制を記載
- ・モニタリング手法は、直接観察と自動撮影調査を併用する旨を記載。
- ・モニタリングにより、生存確認（生存率）、繁殖活動の有無等を確認する旨を記載。